

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	i医療法人社団 山水会
(ユニット名)	グループホーム 蔵王ユートピア
所在地 (県・市町村名)	宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉字八山4番18
記入者名 (管理者)	安藤 重子
記入日	平成21年 2月 12日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員、利用者の入れ変わりもあり、何度も話し合いを持ち理念を作り直した。	○	1 住み慣れた地域の中で一人ひとりの声に耳をかたむけ寄り添っていく。 2 その人らしさを失うことなく最後までゆっくり豊かに。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員の思いの理念を共有でき、日常生活のケアの中でその人に合わせて実践している。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	月1回のホーム便りで家族への報告、面会時になど説明お話ししている。ホーム玄関、食堂に掲示している。	○	運営推進会議で、パンフレットに掲載、月1回のお出かけを通してより地域のかたに理解して頂けるよう活動していく。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣接している老健施設、地域の方にもお願いしたりしているが、立地条件もあり、なかなか難しい。	○	同敷地内にある老健と行事等で交流を持っているが、老人会加入の依頼などを行っている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域長寿会との季節ごと行事、隣接老健デイサービスとの交流をしている。	○	季節ごとの行事の中で多くの機会をつくり、老人会に加入、地域の活動に参加をしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	同法人の諸問題があり取り組みができなかった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前評価の改善課題を見直し、前回の改善項目について職員一人ひとり考えて振り返る事になっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回を目指し行っていたが、同法人の問題が生じ開催が出来なかった。	○	法人への働きかけで2回目が開催でき、地域区長参加、今後民生委員にも働きかけ、意見、助言、話し合いを行いサービスの向上に活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外していない。	○	外部評価を通して事業者より町民に向けた介護教室、ホームの紹介等市町村との取り組み等話す場を設けて行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がない。	○	町主催、講座があれば行ってほしい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	仙南保険福祉事務所主催の講演会で隣接の老健施設で学ぶ機会ができた。日々見守り、観察で努めている。	○	虐待の事実は全くない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項書、利用料、契約書について説明し不安、疑問点、悩んで困っている事も相談にのり理解納得して頂いている。ホームパンフレットで利用料についても説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	老健事務所、運営推進会議、国保連等で受けられる事を文書、口頭で繰り返し伝えている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便り、家族面会時、ケアプラン説明時に報告している。	○	金銭管理について、個人手帳に月日、サイン、出納確認している。月1回のホーム便り時に書面で報告していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で報告、要因を探り意見交換を行い、質の向上を図っている。	○	併設老健事務所内窓口になっているが、ホームに意見箱を置いている。、第三者協力員には運営推進会議でお願いする。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の人員不足により、意見、提案の聞く機会が少ない。	○	月1回の勉強会の実施を目指し改善に向けて努力していく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の人員不足により、柔軟な対応に無理があり、職員の確保が難しい。おのずと時間外勤務をしている。	○	同法人に必要な人員配置をお願いしてる。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者との話し合いは行っていない。	○	併設老健施設との交流があるので、情報交換を密にし、運営者、管理者との話し合いをお願いする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会があれば参加し、老健内の研修会に参加している。	○	必要に応じ勉強会、カンファレンスを実施スキルアップのために機会ごと計画的に受けて行く。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック毎の相互評価、研修会、実践報告会等の機会がある。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者の交代等で取り組みはできていない。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況は把握できているように思うが、働きかけていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族、本人との見学、お話しを多く持ち、本人の言葉を聴きとっている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	支援相談員、ケアマネと話し合い連絡を取り合っ、家族との面談も行ってお話しを聴く機会をもっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相手の視点にたって必要としている支援を相談員、看護部長、ケアマネと話し合い対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前、本人と家族に面談、ホーム見学出来るよう支援し、充分話し合いを行いながら馴染める環境づくりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理(食事の準備、後片付け)部屋の掃除、花の手入れ等本人の出来ることから一緒におこない、地域へ外出等で支え合う関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事(夏祭り)に家族も参加して頂き家族の面会の機会を作り、ケアプラン説明の中でも行っている。	○	お出かけの機会の中で、家族の参加により交流を持っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の生活歴、背景も考慮し家族関係も受け止めながら理解を持ち毎月1回のホーム便りで、本人の暮らしぶりを伝えている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り手紙、電話、お出かけ、外出等で馴染みの場所、人との関係が途切れないよう働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の談話時はさりげなく見守り、会話の中に職員も入り孤立しないよう他の人も誘い、会話の中に入れるようにしている。レクリエーションは全員で行うことにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	本人に関わる医療、福祉関係者と情報交換、家族と連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの会話や言葉から本人の視点に立ち気づきを知る事で家族とも話し合いケアマネジメントを行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族からの聞き取りはもちろんだが、日々の暮らしの中で本人の行動、しぐさ、会話の中からも職員同士情報交換している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活パターンを観察し現状把握に努め朝のミーティング、カンファレンスで話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントをし毎月のモニタリングを活かしカンファレンス時に老健のOT、PT、管理栄養士にも参加以來し介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリング、3ヶ月毎に見直し、必要時はその都度だが見直しを行っている。見直しの内容については家族の意向を確認している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には本人の言葉をそのまま書き入れている。必要な事は連絡帳に記入して毎日朝の申し送りに確認している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	老健職員とも関わりがあり、外出の見守り、通院の介助、リハビリ送迎等必要に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町の官民、地域福祉ネットワークを利用、消防署の指導を受けて火災訓練を行っている。	○	出来る限り機会を多くもてるよう官民ネットワークを通し働きかけていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設の老健施設とはあるが他の事業者との話し合いは行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	個別で相談、お願いをしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に協力して頂いている部分と、職員での支援をしている。老健に看護師も24時間いる事で医師に相談、家族の希望も受けて適切な医療機関での受診をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族の意向を確認しながら、適切に診断、治療が受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設老健施設の看護職員との連携は良く、又ケアマネジャーが看護師でもあるので毎日の健康状態の把握や必要な医療行為は出来ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ホームでの情報や職員が入院先を訪れ情報収集に努め本人と家族の意向も考慮し話し合いを重ねて行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	1件前例経験しているが、職員の交代があり方針は出来ていない。	○	家族、看護師、ケアマネジャー、職員と話し合いの場を設けかかりつけ医との連携体制を整え支援出来るようにしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ケースにより検討し対応していきたいが、話し合いは行われていない。	○	状況の変化に応じて繰り返し話し合いを持ち段階的に努め、家族、医師との話し合いを重ね、ホームで出来る事について説明を行う。入所時の説明で確認、職員で方針を共有していき、家族からの同意書の作成もしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化が与える影響を考える事でその人の知り得る情報交換とケアする方との話し合いを充分行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人尊重した呼び方をしている。人前で恥ずかしい思いをさせない言葉かけの対応に配慮、個人の記録やメモを放置したりしない。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の意見や希望を大切にし、利用者の自己決定を受け入れて支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に本人の希望に沿って一人ひとりのペースで過ごして頂いている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望で併設されている老健内の理、美容を利用している。家族の希望により町内の理、美容に行っている。	○ 家族に本人の希望を伝えて家族と共に出かけて頂いている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の出来ること、得意分野をお願いしている。一人ひとりの力を見極めその方の役割としてお願いし配膳、下膳、後片付けを行って頂いている。	○ 忘れていた時は一言声がけをしてみている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調を考慮しつつ状況に応じ、本人の好みに合わせて行っている。喫煙時は1対1で対応を行っている。	○ その都度本人の希望を伺い実行している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握、声がけと誘導を行っている。失敗が繰り返し見られても、出来る限り自立、一部介助にて支援している。	○	本人の希望や、転倒のリスクの高い方には夜間のポータブルトイレの使用、時間をみて声がけ、誘導、介助を行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めず週2～3回程度で必要な介助見守りを行い、ゆっくり入って頂いている。拒否の利用者の方に対しては声がけの工夫をしながら入って頂いている。	○	汚染された場合はその方を優先にしている。入浴の順番は状況で決めている。又老健温泉入浴もして頂いている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の自由を尊重し居室、こたつコーナーにと休息して頂いている。	○	夜間の巡視時眠れない人には談話したりして安心して頂けるよう支援している。
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションで季節にあわせた物作りをしている。生活歴から得意分野の事があればお願いしている。(お菓子、干し柿、漬物作り)	○	季節毎の行事を行い、レクリエーションにて実施している。(雛人形、七夕、クリスマスイルミネーション飾り、籠作り)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人によって小遣いの管理、買い物を行っている。	○	買い物には職員が付き添い、お金は本人にまかせているが、金額によっては事務所で預かり、帳簿は本人に確認して頂く事になっている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設されてる老健や月1回のお出かけ実施、地域の行事誘いには外出している。戸外の散歩、買い物もして頂いている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	冬季以外はお出かけの機会を設けている。個別には家族と共に出かけている。	○	冬季時はお出かけの機会を設けていなかったが、多目的ホールでの催しにお誘いや、町内からの情報を得てでかけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでも行っている。	○	自らできない人には代行で行っている。電話では家族からホームに掛けて頂き受ける支援を、ホームからは電話番号を押してあげる等の支援を行っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	食堂や居室でお茶を飲みながら談話して頂く。又生活状況、身体状態の近況報告をしている。	○	入居されている他の人とも触れ合う機会も設けている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が研修や勉強会参加、身体拘束を正しく理解し拘束のないケアをしている。	○	対策マニュアルを作成
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けず、一人ひとりの行動を把握し自由な暮らしが出来る支援をしている。老健の職員の協力も得られるよう支援している。	○	玄関は夜間防犯上施錠している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	共用スペースに一人見守り、その他の職員はドアをノックし確認、移動時はかならず声をかけている。夜間随時巡回を行うと共に、呼び鈴で知らせて頂いている。	○	朝の申し送りで一人ひとりの行動、話した言葉等きめ細かな伝達をして常に安全に配慮している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、薬品、重要書類は鍵を掛けた戸棚に、刃物等は目の届かない保管場所に、はさみは職員の引き出しに保管している。	○	マニュアルに沿って保管管理している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会で事故防止について話しあっている。火災訓練は夜間想定で毎年実施。緊急対策マニュアル作成。	○	老健施設でのリスクマネジメント委員会があり参加、勉強している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	併設の老健に協力依頼し、すぐに対応出来る体制にある。新人研修があり急変マニュアルが作成。	○	併設老健の看護師、24時間いつでも協力体制にある。初期対応の勉強会を持ち訓練も取り入れていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難訓練は夜間想定も入れて年4回行っていたが、今年は1回しか行えていない。直通電話により老健職員がかけつける体制をとっている。	○	地域の人々へは運営推進会議を通して協力と理解をお願いしていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	必要時毎に家族に連絡、来苑時近況報告と共にサービス担当者会議時、ケアプラン説明時等職員やケアマネジャーより話しをし理解、納得して頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の様子、バイタルチェック、食事摂取量、排泄の様子等で異常の早期発見に努めている。又毎日一人ひとりのケース記録も行っている。朝の申し送り、ミーティングの時にその日の体調を共有する事が出来る。	○	体調の変化がある時はケアマネ兼看護師がいる事ですぐに報告し指示を受け対応、不在時は老健看護師に報告依頼指示を受け対応出来る。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧表があり薬の効能や副作用について、看護師より指導を受け確実な見守により、服薬の支援症状の変化の観察に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	管理栄養士にも相談、生野菜だけでなく温野菜を取り入れ献立を工夫している。毎日軽体操を実施、排泄のチェックをしている。	○	出来る限り薬に頼らず、必要時はセンナ茶、嗜好品のコーヒー等にオリゴ糖等入れ飲水量、排泄の確認を行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声がけや洗面所まで誘導し、出来るところまでは自力で、不足分は介助で、行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の協力を得て献立表のチェック、脂質、塩分、糖分、素材等の栄養バランス、の指導を受け身体状況に合わせた配慮を行っている。毎月体重測定、毎食食事摂取量のチェックをしている。	○	薄味で調理、酢、レモン、香辛料等で工夫し素材を楽しんで頂く。15時には本人の好きな飲み物を提供している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	老健にある感染対策委員会があり勉強会実施。日頃の手洗い、うがい施行、各ドア、取って、てすりの消毒を実施。汚染物扱い時は手袋使用、嘔吐物、排泄物はふき取った後かならず消毒を行っている。対策マニュアル作成。	○	食事前後テーブルを消毒している。食前に利用者のお手拭を用意し両手の消毒を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁、まな板(肉用、野菜用、魚用)に分けて使用し毎晩ハイター液につけている。新鮮な肉類、魚類を購入するよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前やベランダにプランターやベンチを設置、季節の草花を楽しんでくつげるよう、気配りをしている。	○	立地的な問題があり近隣住民との交流がむずかしいが、ホームから出かける機会を多く持ちたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気になるよう掲示板等は少なくし草花を多く取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂に畳コーナーがありコタツも設置、廊下にソファが置いてある。テラスや玄関にベンチを置いて内外で過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用していた馴染みの家具、使い慣れた用具、写真等を持ち込んで工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝起床と共に、部屋の掃除時必ず窓を開け換気。冬の床暖房はその日の気温、寒暖計を参考に室温調整、着衣の調整をしている。居室や集合場所のごみは定期的に回収し、汚物はその都度取り除き清掃している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、玄関、トイレ、浴室、洗面所、居室に手すり設置。浴室にはすべり止めマット、入浴椅子を用意している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の出来る事は時間がかかってもしていただいている。排泄も失敗してもさりげない言葉がけで、気持ちよく清潔が保たれるようにし、わかる力を大事にしている。特に混乱はおきていない。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	周囲の景観を楽しんだりプランターの花の種まきや水やりなどが出来るようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私たちの勤めるグループホームでは、アピールしたいことが2点あります。まずひとつめは、地域的に困難の問題もありますが利用者が地域との関わりを維持出来るよう、地域の行事に参加したり、月1回は皆でお出かけするなどして、より地域に密着したホームづくりを目指している点です。ふたつめは、併設されてる老健施設と連携を図ることにより、利用者一人ひとりに合った医療、リハビリ、栄養等専門職からの適切なアドバイスを受けることができるうえに、急変等の緊急時に迅速な対応が可能なおことです。